

RI 第 2 6 1 0 地区

井波庄川ロータリークラブ会報

2010-2011 年度 No. 2 6

事務局 〒939-1635 富山県南砺市福光 7336-4 福光会館 3F

ふくみつ光房内 TEL 0763-53-1333 F A X 0763-53-1334、(レイ・クリンギンスミス会長)

INASHORC@athena.ocn.ne.jp

2010-2011 年度 会長 山本武夫、幹事 助田幸雄

2010-2011 年度 RI テーマ



「地球を育み、
大陸をつなぐ」

例 会 記 録

第 1 5 5 7 回例会

平成 2 3 年 1 月 2 6 日(水)

井波文化センター2 階研修室

1. 点鐘 会長
2. ソング 我等の生業
3. ビジター：河合映浩君（南砺 RC）「1 月 12 日、メイキャップのお願いをしておきながら、病院の検査が 2 時近くになり、キャンセルして申し訳ありませんでした。それから、2 月 22 日、3 RC 合同例会は南砺 RC がホストです。皆様こそご参加をお願いします。」
4. 卓話：高瀬会員（米道会員腰痛のため、代理）
5. 会長の時間：鳥インフルエンザがまた、鹿児島や宮崎で発生し、沢山の鶏が殺処分されています。養鶏農家の方はほんとに大変なことです。さて、昨晚はアジアカップのサッカーを TV で見て応援していましたが、12 時前に休もうとしていましたが、結局は延長そして PK 戦まで見ざるを得なくなり、寝不足です。しかし、ワールドカップ見たいなことはなく、GK の川島選手の活躍でいい思いをしました。

さて、昨日は 1 月 25 日、天神講ということで、天神様を暮れに飾って、この日にしようという習慣がありますが、調べたところ、この天神講は、富山と福井にしかない風習だそうです。小さいころは、この天神様の御鏡を 25 日なると片づけて食べるのを楽しみにしていました。幕末の名君の誉れ高い、福井藩主、松平春嶽公が学問の神と言われた菅原道真公を大事に

せよと藩民に触れを出したそうで、それを富山に菓売りが伝え、福井と富山に天神様を祭ることが始まったそうです。ちょうど今頃になると、歯が疼くといって来られる方が増えます。なぜなら、硬い御鏡を食べて都合悪くなる人がいるからです。皆さんも気をつけてください。

それから、2 月 9 日、となみ総合支援学校（元となみ養護学校）に施設訪問します。高等部の卒後の就労に役立つ作業学習の見学をしたいと思います。また、生徒が作った作品を販売活動する体験にも協力したいと思います。当日、場所が分からない方は、9 時半までに山本歯科医院前にお集まりください。乗り合わせていきたいと思います。

6. 幹事報告：①例会変更の案内が来ております。詳細は事務局にお尋ねください。②3 RC 合同例会出欠を確認しています。
7. 委員会報告：プログラム委員会（会報で詳細…ここで再掲）：①2 月 16 日平和会を 3 月 2 日に変更。②2 月 16 日卓話（昼の例会）を先日 19 日の例会の卓話予定者で、身内の不幸で予定してできなかった長谷川会員をお願いします。
8. ニコニコBOX(本日 5 名 7000 円、月計 60000 円、年度計 459160 円)

河合映浩君：先日は御迷惑をおかけしました。

上田会員：早退お詫び。富山で会合です。高瀬先生の卓話聞けず、残念。大雪です。屋根の上だけは、登り

たくありません。

水島会員：新年会以降欠席多くお詫び。昨年より、民生委員を引き受け、そちらが優先になりました。

山本会長：本日母の祥月命日です。早5年経ちました。河合映浩様、ようこそ。高瀬先生、本日はピンチヒッターよろしくお願いします。

助田幹事：高瀬エレクトには、突然電話で、本日の卓話を了解して頂き有難うございました。

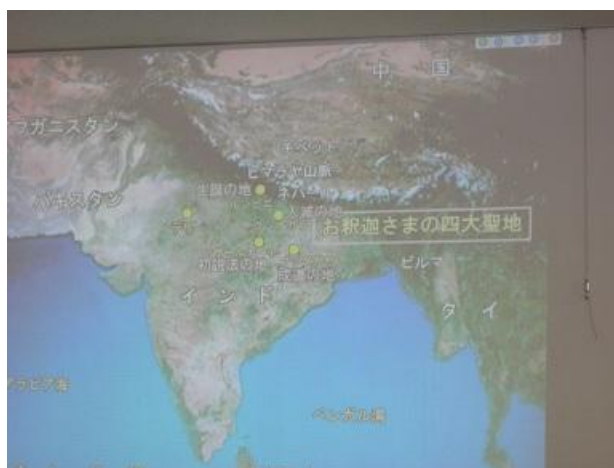
9. 出席委員会報告：19名中12名出席（調整後 70.59%）



卓話「釈迦誕生、成道」高瀬顕正会員

高瀬会員：本日は、急遽卓話の依頼があり、6年前にインド旅行をした話を、できるところまでさせていただきます。

仏教会のグループで、お釈迦様の4大聖地を見てきました。①まずは、「生誕の地」これは、ルンビニ（現在：ネパール）です。②次は悟りを開かれた「成道の地」、これはブダガヤ。③続いて、悟りを開き、最初の「初説法の地」、サルナート。④そして、亡くなられた「入滅の地」、クシナガラ、です。



はじめに、誕生の地ルンビニを訪問しました。古都デリーから、飛行機で、ゴラクプルまで行き、それからバスで悪路を猛スピード（制限速度なし）で、ネパールのルンビニへ向かいました。途中、象が悠然と道をおろしていました。3時間かけて、国境の町ソナウリにつき、インドの出国手続きと、ネパールの入国審査をそれぞれ2時間ほどかけて、ようやくネパールの国境の町ベリーヤに入りました。その時点で夕暮れ、しかしさらに2時間かけてルンビニの法華ホテルに入ったのはすっかり夜も更けていました。「ルンビニ」とは、サンスクリット語で、最果ての地という意味で、古代インド王国では最も北に位置します。お釈迦さまをお腹に、母のマーヤー夫人は、生家でお産の習わしで、出身地のヒマラヤ山脈の麓に戻られるところでした。ところが、途中のルンビニで、産気づかれ、お釈迦さまを御出産なされました。ルンビニには、その聖地（生誕の地遺蹟）があり、1997年世界遺産に登録されています。そこには、世界各地から、観光に人々が訪れます。そこには、生母マーヤー夫人が釈尊を生んだ様子を刻んだ像があり、熱心な信者がその像を拝んでいます。しかし、その像は、無残にもイスラム教徒に顔を削り取られてしま

いました。(その像は最近復元されました。)



今から約 2500 年前の紀元前 463 年の 4 月 8 日に、お釈迦様は無憂樹の木の下で、母マーヤー夫人の右の脇の下から生まれられ、生まれるとすぐ、7 歩歩かれ、右手で天を左手で地を指さし「天上天下唯我独尊」と告げられました。マーヤー夫人は、お釈迦さまを産んだ後、1 週間後に亡くなられ、夫人の妹が、お釈迦さまを育てられました。ルンビニには、お釈迦様の産湯が使われたという池が残っていました(あまりきれいな池ではありませんでした)。この聖地を訪れる僧も多く、それぞれ違う衣装から出身が計り知れます。

続いて、インドに戻り、「成道の地」ブダガヤを訪問しました。お釈迦様(当時ゴータマと名乗る)は、29 歳のとき、長子ラーフラが生まれました。争い事が続き、ある

とき、ゴータマは、愛馬カンタカに乗り、夜、月光の中を王宮を出ました。その時の彫像がミャンマーの寺院にありました。馬の蹄の音がしないように、馬ごと家来に抱きかかえさせて王宮を出る像です。



ゴータマは争いが続くことを憂い、「いのちある者は、すべて涙の谷の住人である。その苦を脱して、真の幸せを見つきたい」と苦行が始まりました。断食の苦行を続ける釈尊。苦行の果て、生命の極限まで衰弱された釈尊の姿をみて、村娘スジャータが乳粥(牛乳に蜂蜜を混ぜた飲み物?)を差し出しました。釈尊はそれを頂かれましたが、修業中は口にしないはずなので、それをみた仲間の 5 人は、釈尊の元を去って行きました。その乳粥によって釈尊は体力を回復されました。最後の瞑想に入られた釈尊に、悟りの邪魔をしようと、様々な悪魔が姿を変え、形を変えて絶え間なく襲ってきます。悪魔たちのすべての攻撃や誘惑にもまったく動ぜず、釈尊は瞑想を続け、そして、夜の星が消え、東の空が白み始めたころ、ついに悟りを開き、仏陀になりました。その時、空には明けの明星がきらめき、満月が輝いていました。これは、2500 年前の 12 月 8 日のことです。



私は、インド旅行の3日目(12月10日)午前3時に宿舎を脱け出し野外に出ました。そしたら、何と空には、明けの明星と満月が輝いていました。ちょうど釈尊が悟りを開かれた時節です。あたり一面静寂、吐く息が白いです。足元の草を手で触れてみると夜露で濡れていました。静寂の中、よく聞いてみますと、あちこちから虫の音が…。私は、お釈迦さまの悟りを開かれた瞬間を疑似体験することになり、大変感動しました。



釈尊、成道の地、ブダガヤ(ブッダガヤ)には、アショ

ーカ王が建てられたブッダガヤ大塔があります。高さ 52 m、壮大な石造りの建物です。大塔には、周囲に300体もの仏像が彫ってありました。このきれいな仏像は、イスラム教徒の破壊から、うまく免れました。どうしてかというと、この地の仏教徒は、イスラム教徒が攻め入ってきた時、52m の塔を土で埋め、塚のように見せかけ、塔や仏像を守ったのだそうです。中でも、金剛宝座の釈迦座像には、直接、拝むことが出来ました。それぞれの国から来た僧たちはそれぞれのお経をあげていました。私たち一行も、一緒に嘆仏偈のお経をあげてきました。

今回は、ここまでとします。

